



第8号
 2019年3月10日
 発行：同窓会事務局
 静岡県立大学
 短期大学部
 〒422-8021
 静岡市駿河区小幡2丁目2番1号
 学生部学生室内
 TEL (054)202-2611
 FAX (054)202-2612

「平成最後の年に、本学の未来を想う」

静岡県立大学短期大学部 学生部長
 仲井 雪 絵

同窓会会員の皆様、初めまして、学生部長の仲井と申します。あと残りわずかとなった平成ですが、皆様にとつてどのような時代であったでしょうか。

人口減少に歯止めが利かないまま国内市場はますます縮小し、企業の国際化は一段と加速しています。高齢者福祉関連産業のニーズは高いのに実働従事者数は不足している矛盾を抱え、女性の活躍場所は拡大傾向なのに子育て就労の環境改善が間にあわず、あつという間に外国人労働者の門戸が大きく開放され、他方ではITおよびIT関連技術が急速に発展を遂げています。2005年に約137万人だった18歳人口は、2040年になると約80万人まで減少するそうです。そして「優秀な」学生を獲得するために、日本中の大学はそれぞれの役割・機能・強みを明確化して大学間の連携・統合に踏み切り、また従来の方法では発掘されない才能を見出すため入試改革を迫られています。本学も入試改革の一環として来年度より新しい入学

者選抜方法を導入する予定です。このような目まぐるしく混沌とする時代の中で、少なくとも機械（AIやロボット）に代用されない人材を育成することが今後の高等教育の目指すべき姿であり、特に短期大学の役割は、幅広い教養をふまえて職業あるいは実生活に必要な能力を育成し、地域貢献を行うことだと考えます。そのために本学の個性が発揮できる多様な魅力的な教員組織づくりと教育課程の改善、教育の質保証に向け

て努力いたします。

ところで「持続可能」という言葉をよく目にします。本学がいつまでも青々と茂る風格に満ちた樹であり続けることを希望します。その根がしっかりと広がり、少々の強風に負けることなく、立ち続けることができそうです。どうか、ホームカミング・デーや同窓会にご参加いただき、時折その樹のたもとにお集まりください。新しい種が風に運ばれ、各地で芽吹き、県短の精神が継承され持続する・・・そのような機会にしていたければ幸いです。次世代の人材育成のために、今後とも御支援をよろしく願います。

幼稚園教諭1年目不安を希望にさせて

平成29年度 第一期こども学科卒業
 須田 風 沙

静岡県立短期大学を卒業してから伊豆の国市立富士美幼稚園に就職しました。須田風沙です。平成30年4月から4歳児23名の担任をしています。卒業してから毎日不安でした。始めて出る社会はどんな世界か、職場の人間関係は大丈夫なのかなど様々な不安を抱えたまま社会人がスタートしました。4月クラスの子供たちと、初めての対面は本当に緊張しました。名前と顔が一致していない状態で子供との距離をどう縮めようかと考えて生活する日々でした。

考えた結果、大切なのは目を見て挨拶をすることから始めることだと気づきました。「〇〇ちゃんおはようございます」と名前を呼んでから挨拶をすることで、次第と教師に興味を持って話しかけてくれるようになります。そうすることで、なぎさ先生と笑顔で話しかけてくれる子供が増えるようになりました。

浜松 同窓生の集い

同窓会副会長
 昭和55年度卒業 第一看護学科
 坪井 洋 子

平成30年11月25日 浜松市 楽器博物館研修交流センターにおいて、2回目の開催となりました。参加人数は役員を含めて41名。多くの方の参加を得ることが出来ました。

当日の次第及び内容を報告させていただきます。

1. 副会長 坪井挨拶
2. 同窓会総会報告 (坪井)
3. 同窓生の集い開催までの経過報告、事務手続きなど日程報告
4. 昨年ご意見のあったフェイスブックについて
5. 同窓会会報、総会の開催案内の郵送について
6. 役員会における浜松の集いの飲食費への意見について

グデイの飲食費への出費について、様々な意見が交わされていくことを報告。

7. 来年度以降の開催についての意見交換

・静岡校は別の学校のような意識。
 ・浜松に愛着があり、浜松駅付近、現在利用している研修交流センターが使いやすい。
 ・浜松の集いを事業実績に載せるべき。
 ・今後も毎年浜松で開催して欲しい。

大学病院として地域への貢献をめざす

浜松医科大学医学部附属病院
 副院長 看護部長
 鈴木 美恵子

浜松医科大学附属病院は、国立大学法人浜松医科大学の附属病院として高度急性期医療を提供し、地域の中核病院として信頼を集めている。看護部では、昨年よりあえ

「Heart 誠実と温かい心で向き合う。Art 自律した看護専門職として寄り添う。Life 尊いいのちとその人らしさを支える」という新しい理念を掲げた。

「心と技術が備わった理想の看護を追い求めるために、大学病院にふさわしく、未来へ引き継ぐ大切なものとして師長たちと考えました」

そう語る鈴木美恵子さんは、看護部長に就任して4年目。この理念を実現するために、二人の看護部長がペアで一人の患者を担当する看護方式、

パートナリング・ナッシング・システム（PNS）導入後の定着を図るなど、看護体制を整えてきた。

「二人で相談し合いながら患者さんに対応できるので看護の質が高まります。また、二人で作業分担することで時間を有効に使えます」

その他にも組織としての経営や労務管理、スタッフのキャリアデザインのサポートなど、看護部長としてやるべきことは多岐にわたる。

「他病院の看護部長と交流する中、強く意識するようになったのが『大学病院としてどうあるべきか』ということでした」

自分たちの看護の質を向上させていくだけでなく、地域全体に貢献することが大学病院としての大切な使命。鈴木さんは昨年、地域七病院の看護部長会議をスタートさせ

・継続すれば参加者は増えると思う（実際に問い合わせも多く、名簿への復活希望も毎年ある）。

その他、当日参加者の中で会報が届いていない方の住所、郵送の希望について確認した。

その後、昼食及び座談会となり、学生気分を味わいながら、（なんと！）自衛隊浜松基地航空ショーを窓際で観賞することもでき、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

た。情報交換することで課題を共有し、地域で解決していくことができる。さらに行政なども連携すれば、より大きな力を発揮できると考えた。また、各病院の専門知識を持つ認定看護師・専門看護師を、健康教室や健康相談会など地域の活動にいかしていきたいと考えている。

「これからは管理職だけでなく、看護師一人一人が院外に出て相互にネットワークを組み、情報交換したり、看護の連携をし合うつなぐ看護」が大切になります」

外に出ることは翻って「内」、つまり自分たちの看護を良くすることにもつながる。実際にスタッフたちは、院外で得たこと、学んだことを自律的に実践へとつなげ、着実に形にしているという。

「最近、ご意見箱に寄せられる患者さんの声の中に、感謝の言葉が増えてきています。それが何より嬉しいですし、手応えを感じています」

重責を担う看護部長になってから、何より自身の健康には気をつけている。楽しみは、バッグを作ること。作品はプロ並だ。

「夜中にミシンを使って作っています（笑）手を動かしている間は無心になり、気持ちをリフレッシュできます」

プロフィール

鈴木 美恵子
 1958年静岡生まれ。1980年静岡女子短期大学第一看護学科卒、浜松医科大学医学部附属病院勤務。九八年看護師

2006年浜松医科大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程修了（看護学修士）。2007年副看護部長、2015年より現職。認定看護管理者。

週刊文春 平成30年7月5日号より